



TITLE:

表紙・編集後記・目次

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙・編集後記・目次. 英文学評論 1977, 37

ISSUE DATE:

1977-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/135102>

RIGHT:

英文學評論

第 XXXVII 集

デアドラの物語 佐野哲郎

——アイルランド伝説の一側面——

文学と文化の間（序論）..... 渡辺久義

——ヘンリー・ジェイムズにおける言語の意味——

トリストロの謎を生むもの..... 中村絃一

——トマス・ピンチョンの

The Crying of Lot 49 について——

シェイクスピア劇とローマ史の人物像（I）..... 木村輝平

——ブルタルコスを中心に——

18世紀イギリスにおける小説批評（II）..... 山本利治

The Translation of a Hero..... David Hale

京都大学教養部英語教室

目次

デアドラの物語……………	佐野哲郎……………(一)
——アイルランド伝説の側面——	
文学と文化の間(序論)……………	渡辺久義……………(一六)
——ヘンリー・ジェイムズにおける言語の意味——	
トリストロの謎を生むもの……………	中村紘一……………(三七)
——トマス・ピンチェンの <i>The Crying of Lot 49</i> など——	
シェイクスピア劇とローマ史の人物像(I)……………	木村輝平……………(59)
——プルタルコスを中心に——	
一八世紀イギリスにおける小説批評(II)……………	山本利治……………(36)
<i>The Translation of a Hero</i> ……………	David Hale……………(1)

編集後記

教室の動向については前号に書いたもので、ここでは編集者としての私見を述べさせていただく。教室談話会についてであるが、これは伝統的に『評論』編集者が企画・世話係になっているので、まずこのことを申し送りたい。勿論これは義務ではないから、やってもやらなくてもよいのだけれども、せっかく昔からあるよい習慣を絶ちたくはない。このままだと絶たれそうな雰囲気になきにしてもあらず、と筆者には思える。これが無意味だという理由はどこを押しても出てこないと思う。勿論、今度の新大学院構想に合わせて、他教室の人々との共同の研究会という形に発展的に解消するならば、問題はない。しかしそこへ行く前に、あるいはそれとは別に、教室の談話会があつて悪い理由はない。

たとえば、この『評論』に発表される論文にしても、いったん活字になつてしまえば、それはいわば神聖にして侵すべからざるものになる。ものにもよるが、その概略が事前に口頭で発表されればお互いを啓発・刺激することもあろう。少なくとも今のところ、われわれは若い専門研究者を持つてはいない。新しい刺激はせめてわれわれ相互の持ち寄りで補うよう努力すべきではなからうか。

英文学評論 第三十七集

非売品

昭和五十二年三月二十五日 印刷
昭和五十二年三月三十日 発行

編集者

京都大学教養部英語教室
代表者 永野芳郎

印刷所

中村印刷株式会社
京都市下京区七条御所ノ内中町

発行所

京都大学教養部英語教室
京都市左京区吉田二本松町

REVIEW OF ENGLISH LITERATURE

Volume XXXVII March 1977

CONTENTS

- The Story of Deirdre *Tetsurô Sano*
—Some Aspects of Irish Mythology—
- Between Literature and Culture *Hisayoshi Watanabe*
—What Henry James's Language
Means (Preface)—
- Thomas Pynchon's *The Crying of Lot 49* *Kôichi Nakamura*
- Roman Historic Figures and Shakespeare:
A Historical Approach to Shakespeare's Roman
Plays with Special Reference to Plutarch *Teruhira Kimura*
—Part I On *Julius Caesar*—
- Critical Theories of the Novel
in Eighteenth-Century England (II) *Toshiharu Yamamoto*
- The Translation of a Hero *David Hale*
-

ENGLISH DEPARTMENT
COLLEGE OF LIBERAL ARTS
KYOTO UNIVERSITY